

「呼子町イカまつり」での婦人部の取組みについて

小川島漁協婦人部
部長 川添 邦子

1. 地域・漁業の概況

私達の住む呼子町小川島は佐賀県北部の玄海灘にあり、豊臣秀吉が築城した名護屋城からも一望できる、周囲4km、世帯数180戸、人口660人の小さな島である。(図1)面積は1km²にも満たない小川島ですが江戸時代から昭和30年代までは捕鯨が盛んで、現在も山の高台には、沖を通る鯨を見張り発見すると旗で合図を送っていた「鯨の見張り所」が昔懐かしく周辺の海を見下ろしている。

小川島漁協は、正組合員99名、准組合員44名で構成されており、漁業形態はイカ一本釣りとうニやアワビ等の採介漁業である。イカの本釣り漁業が80%以上で、この漁業の好・不調が島の経済を左右している。冬場は時化が多く漁獲量も不安定であるが、6月頃になると主幹漁業のイカ一本釣りが盛漁期となり、浜の賑わいとともにも婦人部員もえびす顔となる。

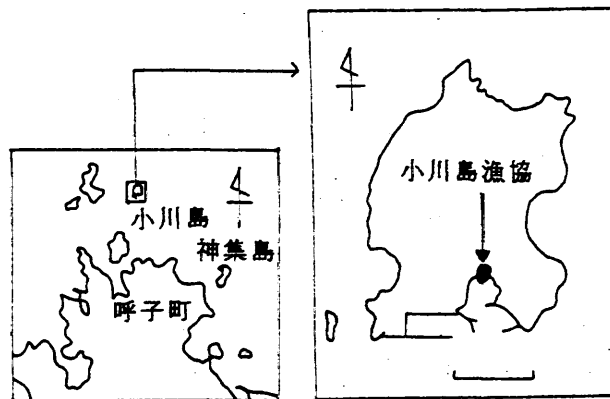


図1 小川島漁協の位置

2. 婦人部の組織と運営

現在婦人部員は90名で、婦人部の活動としては、毎月17日貯金の推進、地域の美化清掃作業や、敬老会のお手伝い、通信(カタログ)販売や生活改善運動、そして7月の「イカまつり」と多忙な毎日である。役員任期は1年なので他の役員と「1年間頑張っ活動していきましょう」とお互い励まし合って活動に取り組んでいる。

以前は「ひじきの採取と販売」を主な活動としてきたが、最近は婦人部員も勤めに出る人が多くなった事や資源(ひじき)の減少によりとりやめている。現在は会費と漁協からの助成金、通信販売やイカまつりでの利益で運営している。近年は、地域の活性化に役立つ婦人部でありたいと、わかしお石鯛の普及、「イカまつり」の支援が主な活動となっている。

3. 研究・実践活動課題選定の動機

「呼子町イカまつり」は当初、「呼子のイカ」を町内外にアピールし、ブランド化させて価格の向上を図り、更には、呼子町漁業関係者が主体的に行動していく事で漁業者組織の活性化、町内外のまつり参加者との交流と理解を深める事を目的に平成8年に始まり、今回で5回目となる。年々盛況で現在では地元を紹介する時は、「イカまつりのある島・小川島」と言っている。

開催当初より実行委員には婦人部も加わり、まつり内容や運営について女性の立場から意見を出し協力している。回数を重ねる毎に、イカまつりの運営の要領も良くなり、お客様に喜んでもらえるようになった。

イカまつりを実施するにあたっては、婦人部の協力が不可欠である。勤めに出る人が多く全員の協力は望めないが、最大限の協力を得てイカまつりをやり遂げたいと、漁協青年部とともに、取り組んでいる。

婦人部研修で初めて耳にした「男女共同参画社会」という言葉。男女が参加する、また参画する社会の支援のもとお互いが協力し頑張る。結果についても責任を持つ事。組織は小さいけれど、小さな思いやりが社会を支えている、イカまつりは、「男女共同参画社会」の見本のように思える。

4. 研究・実践活動状況および結果(効果)

小川島は5つの地区があって、地区毎に作業を分担している。島にあがるとすぐ漁協で、田島神社がみえる地区は、イカとサザエのつぼ焼き、坂が多い地区は、イカ焼きの手伝い。島の北側、小・中学校のある地区はイカの活き造りに、イカの天ぷら、診療所がある地区は受付や案内係。受付が済んだら、「イカまつり参加券」と引き換えにイカ、サザエ、アジ、ご飯とビール等のセットをもらい自由に食べて戴く。郵便局や造船所のある地区は後片づけの担当で、これらを1年交代で行う。

イカまつりの前日は婦人部総動員で、夜遅くまでバーベキュー用のイカを開く人やサザエ・アジの袋詰め、おにぎりの用意等、大忙しである。呼子町内の婦人部の方々や役場等からと呼子町民の協力で、イカまつりを実施する事ができている。

当日多くの人に参加してもらいたいと、県内でのポスター貼り、TVや新聞に事前に取りあげてもらい、県内外にPRしている。

昨年の第5回「呼子イカまつり」は7月22日、土曜日に小川島漁港広場でさわやかな夏空のもと開催した。当日は、朝起きた時に南西の風が心地よく吹いて「これならいける、成功だ!」と指を鳴らした。絶好のイカまつり日和で開催する事が出来て感謝している。当日は朝10時頃から臨時便の高速船が出てお客様の運行にあたる。小川島に嫁いで来た若いお嫁さん達も、暑さに負けず良く頑張っている。炭火で顔は焼け、日差しでも焼け、顔は真っ赤、あの一生懸命さに感激した。「若い人が頑張るなら、オバサンも頑張らないといけない!」と思うイカまつりである。

イベントの目玉に「イカ様レース」と「魚のつかみ取りコーナー」がある。イカ様レースは5つのコースに分かれた水槽にイカを泳がせ着順を競うものである。イカのかわいい事、一生懸命に泳ぎようやくゴール、イカ様お疲れ様である。魚のつかみ取りは、特設の生け簀に、タイ、ベラ、タコ、それにイカがはなされ、素手でつかむ。子供達限定なので、

日頃魚を素手でつかむ事のない子供達は水着になり、魚やイカをちゃんと捕まえようと必死で水しぶきを上げ格闘し、ワイワイと騒いでいた。保護者は周囲で応援し、常連さんになるとクーラーボックス持参の様である。

又、遊覧船「さよひめ」のチャーターは、とりわけ好評で特別に海上遊覧も行った。バルーンの係留飛行は、あいにくの風で思うようにはいかなかった。島でとれた「ところてんやトウモロコシ」の販売は新鮮でおいしいと、あっという間に完売であった。

事前のPRのお陰で福岡など県外からの参加者もあり、家族づれなど約1,000人の人出で賑った。

5. 波及効果

参加された方に感想を尋ねると、「青い海と豊かな緑のもとで、自然を満喫した。」「小川島ならではの海の幸を十分に満喫できた。」との事であった。この様な感想を聞くと準備などの苦勞が吹き飛ぶ思いである。

婦人部員の晴れ晴れとした、イベントをやり遂げた充実感に満ちた笑顔や参加された方々の満足そうな笑顔を見た時、「何の為に、あの炎天下で活動しなくてはいけないの?」と言う疑問と腹立たしさが一瞬にして消え去った。

このイカまつりを通じて、婦人部はこの手で出来ることに今後へ向けての大きな自信を持ち、また島への誇りを持つ事ができた。

6. 今後の課題や計画と問題点

美しい山と海、それらが生み出す人々の人情、愛、そして新鮮な水産資源、小川島の全ての良さを参加された皆さんに味わってもらい、対外的にアピールが出来たと思う。今回まで含めて5回目の小川島での開催により、小川島でのイカまつりは確立しつつある。離島と言う事もあり、風雨の心配など天候に左右されると言う厳しい現実もある。今後は呼子町本土での開催も検討中である。その時は今まで受けた本土の人達の協力以上に私達も協力し、開催したいと思っている。

活動をしていかなければ、問題点や反省点は見えてこない。まだまだ改善すべき点もありますが「誇れる郷土」の為、漁協を始め、漁協青年部や関係機関と積極的に話し合い、私達婦人部が先頭に立って実行していきたいと思っている。

婦人部活動の基本とも言える「人の和」を常に忘れず活動していくのは、難しい事であるが「イカまつり」の開催により、婦人部内に強い絆の構築ができたと思う。

又、漁協では漁家所得の向上への取組みとして、昨年よりケンサキイカを東京の築地市場に出荷しています。機会がありましたら、呼子のイカを食べてみて頂きたい。

これからも、いろいろな交流活動をとおして、自己啓発、ひいては地域の活性化につなげて行きたいと思う。

島の人に支えられて 成功したイカまつり

第5回「呼子町イカまつり」が7月22日に小川島新港広場で開かれ、町内外から1000人以上が詰めかけた。小川島住民のささえがあつて成功してきたイカまつりも「今年が最後」という話もあります。参加者や島の住民の声を聞いてみました。

島であるというのが魅力で、船に乗る楽しみもあり「島す。船に乗る楽しみもありますね」と語っていました。準備から当日の接待まで汗だくでがんばった島の主婦は、「今年が最後ということ、夏の忙しいなかで、みんな言いたいこともいわずにがんばりました。小川に人が来てもらえ、小川に人が来てもらえ、それはうれしいんですが、『呼子イカまつり』というところから、次はほかのところでも開いてほしいですね」とも語っていました。



水しぶきを上げ、魚のつかみ取りをする子どもたち。呼子町小川島

海の幸と自然満喫

小川島 家族連れら90人
イカまつり

呼子町

呼子町イカまつりが二十二日、同町小川島であった。人口七百人の島に島外から家族連れなど約九百人が訪れ、青空の下で新鮮な海の幸のバーベキューや魚のつかみ取りを楽しんだ。

まつりは島の活性化と特産品のイカのPRを図ろうと、同島漁協や同町などが主催して始まり、今年で五回目。島を訪れた家族連れは照りつける太陽の下、イカやサザエなどのバーベキューに舌鼓。魚のつかみ取りや生きたイカをいけすで走らせる「イカさまレース」などに歓声を上げていた。

家族六人で参加した多久市の会社員は「魚介類はおいしいし、透명한青い海や木々の緑を見ているだけで気持ちいい」と島の自然を満喫していた。(石黒)

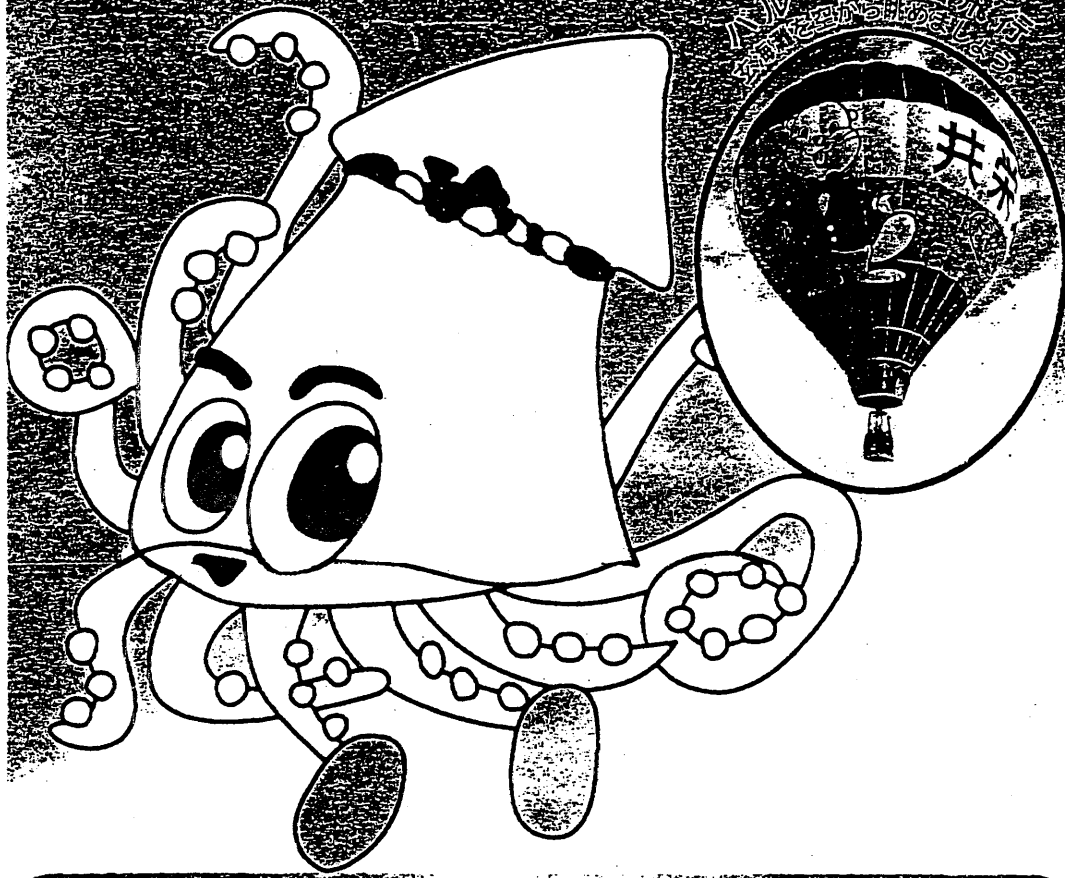
とき 平成12年 7月22日(土)

午前9:30~午後3:00

ところ 佐賀県東松浦郡呼子町小川島

第5回

呼子町イカまつり



主な催物

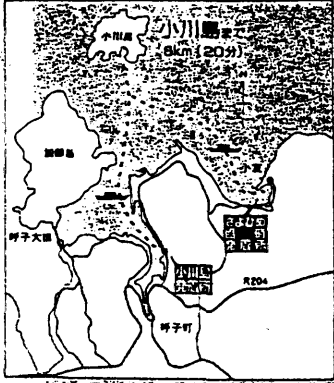
ハルーンキュー …イカ・アジ・サザエなどの海の幸をどうぞ
 イカさまレース …活きたイカを使ったおもしろいレース
 料理の鉄人 …自分でイカの活き造りが作れる
 魚のつかみ取り …いけすで活きた魚を捕まえよう
 ハルーン留留飛行 …玄海灘を空から眺めましょう
 物産の販売 …イカ一夜干し、鰯肉など海の幸

参加券

2,000円 (往復渡船費・ハルーンキュー相当分)

参加券販売所

- 小川島漁業協同組合 (0955-82-8321)
- 呼子町漁業協同組合 (0955-82-1717)
- 呼子町浦方漁業協同組合 (0955-82-3616)
- 小友漁業協同組合 (0955-82-3886)
- 加部島漁業協同組合 (0955-82-4853)
- 片島本部漁業協同組合 (0955-82-3753)
- 呼子町役場水産課 (0955-82-3011)



主催：「呼子町イカまつり実行委員会」 後援：「佐賀県」「呼子町」